

管内月間火山概況（平成 21 年 1 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（2月6日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）：浅間山

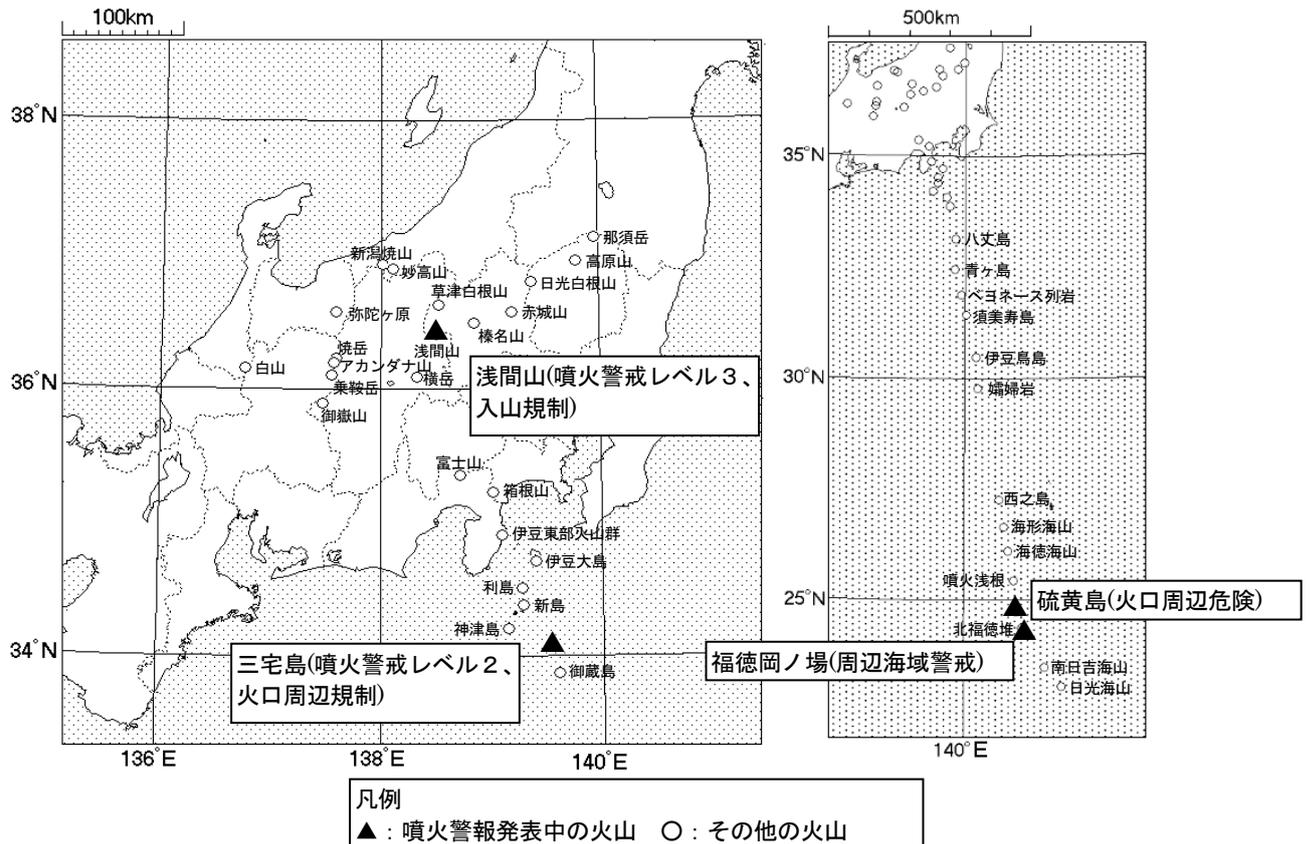
火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）：三宅島

火口周辺警報（火口周辺危険）：硫黄島

噴火警報（周辺海域警戒）：福徳岡ノ場

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島

噴火予報（平常）：那須岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入しています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 2 月分）は平成 21 年 3 月 6 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、環境省インターネット自然研究所、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、東京都、長野県、岐阜県、新潟県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項

浅間山では、2月1日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

その他の火山の予報警報事項に変更はありません。

那須岳〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

草津白根山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

地震活動や地殻変動には特段の変化はみられませんでした。水釜火口の北側にあたる斜面や湯釜火口内北東部でわずかな熱活動の高まりがみられており、今後これらの活動がさらに高まった場合には、火口内で噴出等の現象が発生する可能性がありますので注意が必要です。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕 ← 2月1日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）引き上げ、2月3日に火口周辺警報の切替（噴火警戒レベル3、（入山規制）継続）

1月は、昨年12月と比べ火山性地震がより多く発生し、火山ガス放出量がこれまでの観測の中で最も多い量が観測されるなど、浅間山では地震活動、熱活動がより高まった状態が続きました。

2月1日2時頃からマグマの上昇を示すと思われる傾斜変化が現れました。また、7時頃から山頂直下が震源とみられる周期の短い火山性地震の増加が観測されたため、浅間山では噴火が切迫していると予想し、13時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

その後、2月2日01時51分頃に山頂火口で小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上約2000mに達して南東方向に流れ、降灰が関東地方南部及び伊豆大島まで確認されました。同日午前中に長野県の協力を得て実施した上空からの観測では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が山頂火口の北西約1～1.2kmにまで達しているのが確認されました。浅間山で噴火したのは、昨年8月14日以来となります。

2日の噴火以降、噴火の切迫を示す傾斜変化や周期の短い火山性地震の増加は認められなくなりましたが、火山性地震は引き続きやや多い状態です。また、2月3日、4日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり2,000～4,300トンと多い状態が続き（前回1月27日、600～1,800トン）、噴煙も火口縁上200～600mとやや多い状態が続いています。夜間には高感度カメラにより微弱な火映が時々観測されるなど、現在も活動の高まった状態が続いています。

噴火が切迫する状態ではないものの、引き続き火口から4kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があると考えられますので、3日09時30分に火口周辺警報を発表し、警報事項を切り替えました。

浅間山では、火口から4kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があると考えられますので、これらの地域では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

新潟焼山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

御嶽山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

白山〔噴火予報（平常）〕

10日及び25日に白山付近を震源とする地震が一時的にやや増加しましたが、その他の観測データに変化はありませんでした。火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

富士山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

箱根山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆東部火山群〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

伊豆大島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

18 日 02 時 40 分頃より伊豆大島西部を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その他の観測データに変化はありませんでした。

地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続しています。

今後の火山活動に注意する必要がありますが、現在は静穏な状況で、三原山山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

三宅島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

多量の火山ガス放出及び火山性地震のやや多い状態が続いています。火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。雨による泥流にも注意が必要です。

八丈島〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しています。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降見られている島全体が隆起する地殻変動は、11 月末頃から鈍化したものの、現在も継続しています。

硫黄島では引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要です。

福徳岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）〕

7 日に第三管区海上保安本部実施した上空からの観測及び 20 日に海上自衛隊の協力を得て実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動に伴うものと思われる変色水が確認されました。これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測でも、福徳岡ノ場付近の海面に、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

福徳岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。